

ナシでの天敵製剤(カブリダニ製剤)の利用



ナシ樹に設置した天敵製剤
ミヤコバンカー



ナシ園下草管理を行う自律走行
式草刈機ロボモアKRONOS

新 果樹のハダニ防除 マニュアル

天敵が主役の防除体系

【第三版】



農研機構
NARO

参考とした技術マニュアル

滋賀県大津・南部農業農村振興事務所
農産普及課 村井 公亮

背景・目的

守山市ナシ園地・・・**ハダニ発生**（防除：年間3回）

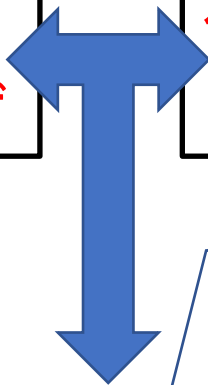
これまでは・・・

対応マニュアル(農研機構)が示されたが除草面から**活用できず**

令和3年度

花・果樹研究部(滋賀県)の成果情報
自律走行式草刈機、活用できる可能性

国庫事業（みどりの食料システム戦略推進
交付金（グリーンな栽培体系への転換サ
ポート））を活用しています（R4-R5）



自律走行式草刈機による草生栽培を活かして、「**新果樹のハダニ防除マニュアル**」を基にした**ハダニ対応型栽培体系**を確立

見込んでいる効果

化学合成農薬使用回数削減	現状 3 回	⇒	1 回
ハダニ類防除・除草作業時間短縮	現状 9 h/10a	⇒	3 h/10a

R4 実施内容 結果・課題

調査1：自律走行式草刈機の導入による省力化の検証

作業時間、草丈推移、経費試算、使用上の課題問題点等

⇒〇ロボモアを導入：電源が確保できるナシ園

において30aを超える規模での導入が望ましい

〇導入に当たっては園地の改善や機械の定期

的なメンテナンスが必要

轍にはまり込んだ機体



調査2：天敵製剤を活用したハダニ類対応型防除体系の検証

寄生葉率の推移、天敵類発生状況、ハダニ類薬剤感受性

⇒〇初期防除の遅れや薬剤感受性の低下によりハダニ類の発生を

抑えきれなかった

➡ 得られた課題を活かして、令和5年度、再度実証へ

R 5 実施内容

天敵製剤を活用したハダニ類対応型防除体系の検証

(防除暦、散布量、天敵製剤使用方法等を変更)

寄生葉率の推移、天敵類発生状況、被害状況、
樹園地下草状況作業時間、経費試算 等

⇒化学合成農薬使用回数や作業時間短縮等の

目標達成は困難 と考えざるを得ない状況。

(結果の詳細は現在とりまとめ中)



➡ 2か年の実証調査で望ましい結果は得られず、直ちに普及拡大することは困難な状況。但し、(課題は残るものの)望ましい防除体系案の策定は出来ており、今後、研究機関等において知見の蓄積等が進めば、このような「グリーンでスマートなナシ栽培」が普及することが期待できる。